

隠岐地区会員保育所(園)紹介

平成26年度より隠岐共生学園 4園が会員に加わり、
隠岐地区会員保育所(園)は5園となりました。



隠岐共生学園 第二保育所
隠岐共生学園 第二夜間保育所
〒685-0017
隠岐郡隠岐の島町下西 166番2
TEL:08512-2-0129 FAX:08512-2-0210
定員:140名(第二保育所)
20名(第二夜間保育所)



双葉保育園
〒685-0005
隠岐郡隠岐の島町東郷川尻30-2
TEL:08512-2-5753 FAX:08512-2-2153
定員:70名



隠岐共生学園 乳児保育所
〒685-0014
隠岐郡隠岐の島町西町大城の一、16番地8
TEL:08512-2-0774 FAX:08512-2-0774
定員:20名



隠岐共生学園 第一保育所
〒685-0014
隠岐郡隠岐の島町西町大城の一、16番地9
TEL:08512-2-0510 FAX:08512-2-0512
定員:70名

編集後記

壁にぶつかるとすぐにマイナス思考になってしまう。こんな私の支えとなる言葉が「いつも笑顔でいて下さい。どんなに自分がつらくても人の心まで暗くする権利はありません」(ノートルダム清心学園理事長 渡辺和子 著)人にはいろいろな支えが必要ですね。(N.O)

発行日 平成26年9月15日 発行者 島根県保育協議会 編集者 総務広報委員会

人材育成プロジェクトについて

人材育成プロジェクトリーダー 相山 慈
(江津市 あさり保育園 園長)

平成26年度から人材育成プロジェクトが新しい形でスタートしました。昨年までメンバーは4名+オブザーバー1名の計5名でしたが、今年度からは各市郡から代表の方に加わっていただくことになり、10名のメンバーで活動していくことになります。平成22年度から動き出した人材育成プロジェクトは「どんな目的でどんな活動をしているのか」を知らない方がかなり多いのが現状だと認識しています。アピール不足など原因はいろいろとあったわけですが、メンバーが10名となり各市郡とのつながりが強まる今年度からは、人材育成プロジェクトについてより知っていただくことができるようになるでしょうし、またみなさんの声を反映した取り組みも行いやすくなると考えています。

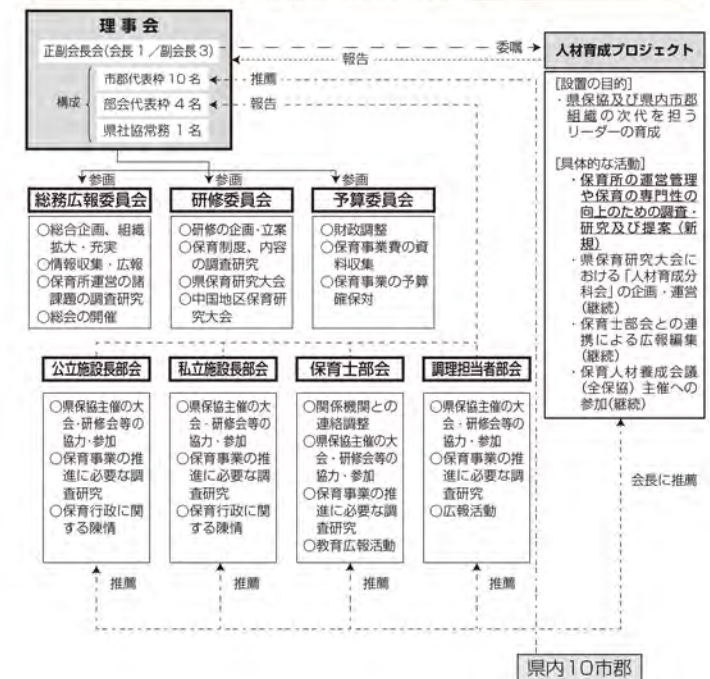
人材育成プロジェクトという名称から「リーダー的役割などの限られた方にしか関係のないもの」と思われている方も多いようですが、保育に携わるすべての人が保育の仕事に夢をもって取り組める環境づくりを目指し、そのための具体的提案や研究実践を行っていくことがこのプロジェクトの目的です。保育士のみなさんをはじめとする保育に携わるすべての方が、個々の特徴を發揮しながら生き生きと保育に向き合っていけることこそ、今強く求められていると考えています。そのために何ができるかを考え、地道に活動しているのが人材育成プロジェクトです。昨年度は「忙しさ」ということをテーマとし、日々感じている忙しさについて様々な角度から話し合ってもらい、その

忙しさをどう受け止めるかについて考えてきました。今年度は「人間関係」「チームワーク」をテーマとして活動していくことを計画しています。

またそれに関連して、島根県福祉人材センターとの連携にも力を入れていきます。島根県福祉人材センターが行っている保育士の離職の原因に関する調査があるのですが、そこで悩みの上位に挙がってくるのが「人間関係」です。その結果も踏まえて今年度のテーマである「人間関係」は決まりました。保育現場における課題をより明確にしていくためにも、こうした連携を深めていくことは必要だと考えています。

そして最後に、みなさんからの「こんなことで悩んでいる」「こんな研修の場を作ってほしい」といった声をお待ちしています!と書いて締めたいところですが、実際にはそうした意見を届けてもらうことは難しいだろうと思っています。だからこそ、ぜひ一度人材育成プロジェクトが行う研修に参加してみてください。そしてそこで直接いろんなご意見を聞かせてください。お待ちしております。

島根県保育協議会組織図(H26.6.4~)



前列左から [松江] 山本優子、[大田] 海原 泉、[安来] 広中朱美、
[かのあし] 友重久美子
後列左から [浜田] 山崎央輝、[出雲] 竹内寛和、[益田] 田中文仁、
[江津] 相山 慈、[雲南] 景山直美、[邑智] 宮本規子

第60回 中国地区保育研究大会が開催されました。

期 日：平成 26 年 7 月 17 日(木)～18 日(金) 場 所：広島市「ANA クラウンプラザホテル広島」 参加者数：855 名

第60回中国地区保育研究大会に参加して(雑感)

島根県保育協議会 会長 中山 哲夫
(松江市 ふたば保育所 所長)

第60回の還暦という節目を迎えた中国地区大会が去る7月17日・18日の両日、広島県保育連盟連合会主管でANAクラウンプラザホテル広島を会場として開催されました。全体では 855 名の参加があり地元の広島県、広島市を除くその他の県の中にあつて、今回は会場の関係もあり積極的参加呼びかけがありませんでしたが、それでも島根県は目標参加数126名に対して実参加数112名と抜群の第1位の参加率でした。本大会の開会式で、前年度大会処理報告を無事に済ませやっとな年の島根大会の作業が全て終了いたしました。

さて、本大会は国の制度が大きく変わる直前の大会であり、徐々に新制度の具体的内容が明らかになるにつれて様々な意見や不安が錯綜する中での大会となりました。その結果、大会前日に開催された中国地区保育組織正副会長等会議で状況報告を行った万田康全保協会長に各県代表より「全保協執行部では認定こども園移行を前提とした話がされているのではないか」「今後とも保育所として存続する施設の声を国にしっかりと届けて欲しい」「厚労省のスポークスマンのような話を聞いてもしょうがない」「もっと国にはっきりと意見を主張できる組織となることを願う」などの強い意見が寄せられることとなりました。未だに諸手を挙げて歓迎することのできない新制度が進行する中で保育士の資質向上に逆行する子育て支援員制度の導入問題、社会福祉法人経営を圧迫する法人税課税問題など次々



開会式(広島県保育連盟連合会 小川会長挨拶)

と難題が突き付けられている現状では、法人が自らを厳しく律することと、全保協には常に的確かつ迅速に諸問題に対処できる組織の力量と覚悟が求められています。全保協組織も存続のかかった正念場となったようです。

ところで、現在の認可保育所が新制度に移行するには、幼保連携型と保育所型の二類型しかありません。国は幼保連携型しか眼中になく保育所型は全く影が薄くなっています。その保育所型は現行の認定こども園と同類型であるといわれており、あるアンケート調査では現行の認定こども園の25%は「認定こども園をやめることを検討中」との情報が流布され益々混沌の中にあると思うのは私一人でしょうか。



前年度大会処理報告(島根県保育協議会 中山会長)

第六十回 中国地区保育研究大会
大会アツピール

子どもは社会の希望であり、未来をつくる存在です。乳幼児期は、豊かな心情・意欲・態度、基本的生活習慣等生涯にわたる人格形成の基礎が培われる時期です。一人一人の子どもの生命を守り、情緒の安定を図りつつ、子ども理解に基づいて、成長・発達に向けた適切な援助をし、保育者としての責務を全うしなければなりません。

すべての子どもの健全な成長を目指し、「すべての人が子どもと子育てにかかわりを持つ社会の実現」に向けて、それぞれの立場で責務と役割を果たしていくことをアツピールします。

- 一 私たちは、子ども一人一人の発達に寄り添います。
- 一 私たちは、保護者の子育てを支えます。
- 一 私たちは、専門職としての責務を自覚し、日々資質の向上に努めます。
- 一 私たちは、子どもと子育てにやさしい社会づくりに貢献します。

平成二十六年七月十八日
第六十回中国地区保育研究大会 参加者一同

第5分科会 中国地区保育研究大会を終えて

益田市保育研究会 塩満 恭子
(益田市 神田保育園 園長)

7月17日～18日に広島で行われた中国地区保育研究大会、「保育の社会化に向けて～保育の営みをいかに一般社会に発信するか～」という第5分科会において、「ふるさとで生きる人づくり～保育所からの発信～」というタイトルで発表させていただきました。益田市保育研究会が、21年度から6年間取り組んできているふるさと教育研究委員会の取り組みについて、地域資源を活かした保育実践をあげながら発表しました。24年度、島根県保育研究大会において発表した取り組みに加え、小学校や地域を巻き込んだ取り組みやその効果などについて、保育の社会化という視点からの発表としました。

研究発表という機会をいただき、改めてこの6年間の継続した取り組みを振り返り、分析、整理することができたこと、この研究大会を通して、自分たちの取り組みの強みや課題を新たに見つけることができたことに本当に深く感謝しております。この分科会のテーマでもある「いかに社

会に発信するか」という点においても、どう自分たちが社会を意識しながら保育をしていくのか、自分たちの発信力が問われることを感じました。ご助言くださった東洋大学准教授の高山静子先生は、「保育者は保育の専門家であり、保育実践の質を高めることが最優先、そして質の高い保育実践を行っていくことこそが保育の社会化につながる」ことを繰り返しお話されました。11月に行われる秋田での全国大会に向け、さらに、質の高い実践を継続しながら、発信力をもって、取り組んでいきたいと思っています。



第59回 全国保育研究大会のご案内

中国地区保育研究大会次期開催は、第59回全国保育研究大会として平成27年11月11日(水)～13日(金)に山口市において開催されます。



次期開催地挨拶(山口県保育協会 渡邊会長)